

聖地のこどもニュース

オリーブの木

No. 61

2016年 8月



「平和の架け橋 in 長野」プロジェクトでの一コマ。飯綱高原で子どもたちとバーベキューの後。

支援者の皆さま

「平和の架け橋 in 長野」は、多くの実りを持って終わりました。長野の皆さんにとっては、遙か中東の紛争国イスラエル・パレスチナから来た若者たちが日本の青年とともにお寺の宿坊で共同生活をしている姿が新鮮だったに違いありません。若者たちにとっては、長野の皆さまの温かいおもてなし、豊かな緑の大自然の中での子どもたちとのふれ合い、お年寄りたちの笑顔、音楽やダンス、食文化による交流など、すべてが「平和」を感じさせるものでした。

東京では長野での体験交流をとおして、互いに「平和の架け橋」を築く作業に取り組みました。赦しと和解、尊敬と思いやりを学ぶこのプロジェクト。明日の国際平和につながるよう、どうぞ皆様の引きつづきのご支援をお願いいたします。

井上 弘子 スタッフ一同



認定NPO法人
聖地のこどもを支える会



当NPOは、国際協力NGOセンター（JANIC）によるアカウンタビリティ・セルフチェックを受け、基準の4分野（組織運営・事業実施・会計・情報公開）について適正に運営されていると審査されました。

事務局 〒164-0003 東京都中野区東中野 5-8-7-502 **Email** ispalejpn@gmail.com **TEL/FAX** 03-6908-6571

ご支援は… 郵便振替 **00180-4-88173** 加入者名 「NPO法人 聖地のこどもを支える会」

当法人へのご寄付は、税制優遇が受けられます。

<http://seichi-no-kodomo.org>

2016年は長野～東京でプロジェクト実施! あらましを報告します

当法人理事長 井上弘子



8月5日東京駅で。

長野県での文化交流 (8月5日～12日)

8月5日、イスラエル・パレスチナの10人の若者たちが、リーダーとともに羽田空港に到着した。長旅の疲れも見せず、憧れの日本に来た喜びと期待で彼らの表情は輝いている。実は今回、出発までははらの連続だった。イスラエル治安当局からもらうはずのベツレヘムからの参加者のテルアビブ空港使用許可が出発前夜になっても届かなかったのだ。急遽イブラヒム神父に連絡し、夜遅くまで掛け合ってもらって飛行機の出発に間に合わせることができた。

さて東京駅で、日本の参加者およびスタッフが合流し、新幹線で長野へと出発した。宿泊所は善光寺玄証院。住職の福島貴和師は当NPOの理事でもあり、この度の長野でのプログラム作りと実施に全力で関わっていただいた。

20歳から25歳までの若者たち。パレスチナ人4名、イスラエル人4名、イスラエル国籍のアラブ人1名、日本人3名。スタッフ5名を加えて総勢17名の共同生活が始まった。文化も習慣も異なる日本で、しかもお寺の宿坊で、畳の部屋に布団を敷いての雑魚寝生活。慣れない食事や共同生活の規則など、戸惑うことはいろいろあっただろう。宗教や習慣の違いを超えて協力し合う生活をとおして、「平和共存」は可能だということを感じることができたのではないだろうか。

イベントで披露する合唱とダンスの厳しい練習。

中には経験者もいるが大半は全くの素人だ。にもかかわらずみんなで助け合いながら挑戦した。なじみのない歌やダンスは大変だったが、若者たちは相手をありのままに受け入れて、ハーモニーをつくりダンスの表現に取り組んだ。

日本の文化や自然を味わい、人の心の温かさに触れる活動ができたのは多くのボランティアの方々のおかげだ。浴衣姿で善光寺の「びんずる祭り」に参加、飯綱高原で大人も子どもも一緒にイワナ釣りやバーベキューを楽しんだ遠足、善光寺早朝のお勤めや禅をとおしての仏教体験などなど。

ホームステイ先での家庭生活、老人ホームのお年寄りたちとのひととき、福祉センターでの長野伝統料理「おやき」の実習など、たくさんの市民と触れあうことができた。

11日に行われたイベント「平和の架け橋」国際交流の集いでは、80人以上の参加があった。若者たちによる歌とダンスに加えて、イスラエル・パレスチナの手作り料理も味わっていただいた。さらに地元合唱団「カント・キアラ」やゴスペルグループ、ハンドベルグループなどの演奏も加わり、ささやかな「国際文化交流」の催しができた。

長野での交流活動につづき、JICA東京国際センターで対話と分かち合いを行い、彼らなりの情報発信に取り組む。

続報は「オリーブの木」次号でお伝えし、プロジェクトの総括は「報告書」にまとめる予定。

(8月14日速報)

認定NPO法人聖地のこどもを支える会の 会員になりませんか?

さまざまなプロジェクトをはじめ、教育支援事業など、当会の活動を総合的に支えていただく会員制度。あなたのご意見が、平和のつくり手を育てます。事務局までお気軽にお申し出ください。

正会員	個人	年額 12,000円/1口
	学生	年額 6,000円/1口
サポート会員		年額 6,000円/1口

正会員は、当法人の総会等での議決権を行使することができます。

出川展恒氏講演会『混迷する中東情勢を読む』

7月3日、夏のプロジェクト支援の一環としてNHK解説委員・出川展恒氏による講演を行いました。会場は今年も東京都武蔵野市のカトリック吉祥寺教会です。バングラデシュで、日本人7人を含む多数の犠牲者を出すIS絡みのテロがあった翌日のことでした。出川氏は4日朝にトルコでのテロに関して解説する予定だったのが、この事件で番組変更になるため、その内容を一部、事前公開するという「おまけ」がありました。

講演の要旨は以下の通りです。

▼IS(イスラム国)の現状

2014年6月にシリアの一部とイラク北西部を制圧して一方的に国家を宣言した過激派組織ISは「欧米が作った世界秩序」に反対し、宗教が違うものすべてを敵とみなして殺し、誘拐し、ITを駆使して宣伝をしています。ISが勢力を伸ばした背景は、イラク戦後のイラクの国づくりの失敗とシリア内戦です。

イラクの人口の60%はイスラム教シーア派、20%がスンニ派アラブ人、あとの20%がクルド人です。旧フセイン政権時代には主流派だったスンニ派アラブ人が、選挙をすれば常に少数派となり、政治・経済などあらゆる面で排除されるようになって不満を強めました。そこへ侵攻してきたISを受け入れ、合流する人々も出てきたのです。

シリアでは、政府がコントロールできない地域が広がり、ISが勢力を伸ばしたり、イラクで押し出されたIS戦闘員が国境を自由に越えて逃げ込み息を吹き返したりする場所になっています。

▼軍事作戦の成果は？

ISに対しては米国が主導し欧州、中東諸国の一部による有志連合にロシアが加わっての空爆と、地上ではイラク、シリア両政府軍とシリア反政府軍、クルド人が戦っています。ISはその領土のうちイラク



約100人の参加があり、会場のパーティションを広げての講演となりました。

では45%、シリアでは20%を失いました。空爆で資金源となる石油施設や現金保管施設がたたかれたほか、戦闘員も減り、外国からの志願者はかつての7分の1以下になったともいわれています。

6月26日に米軍と中央政府軍の拠点だったファルージャ(イラク中央部)を奪還できたのは大きな前進ですが、ISを壊滅させるにはなお課題があります。今後のカギとなる、イラク第2の都市モスルとISが首都と宣言しているシリア北部のラッカという重要な2拠点の奪還作戦を主に担うのは、北からのクルド人部隊と南西からのシリア政府軍です。ところが両者には協力関係がありません。また、ISは住民を盾に使い、化学兵器を用い、有志連合に加わる国でテロをするなど、追い詰められてなりふり構わぬ手段をとっており、軍事作戦を進めるほど民族的・宗教的対立を深める恐れがあります。

▼政治面の課題

問題は、混乱が続くところに過激派がはびこることです。イラクのアバディ現政権は様々な勢力から突き上げられて行き詰まり、政府も議会も機能していません。去年11月にパリで起きた同時テロで、シリア和平が必要だという機運が高まりました。しかし、そもそもアサド政権、反政府勢力、ISが三つどもで戦っている中、政府の支配地域はわずかしかなく、反政府側はIS並みの過激派も含む多数の組織の集まりとあって、話し合いさえできないありさ



ま。停戦回復には関係国の足並みがそろわない限り困難ですが、それぞれを支援する国の思惑もさまざまです。

そうはいつでも、内戦で27万人の死者と1100万人の難民を出したシリアが崩壊すればISの巢窟となってしまいます。イランとの核協議で協力し合えた米国とロシアが、影響力を及ぼさねばなりません。

▼イスラエル・パレスチナ和平

去年9月以降、テロが相次いで和平交渉の見直しはありません。イスラム教聖地をイスラエル軍が一時封鎖したのがテロのきっかけでした。

1993年の自治合意の基本目標は、パレスチナ人に国を持たせイスラエルとの二国家共存を実現することでした。しかし、自治合意に基づく和平プロセスは崩壊しています。その主な原因は三つです。

一つは、パレスチナ国をつくるべき領土にイスラエル人による入植地という障害物があって、土地を分断していることです。ネタニヤフー現政権は入植政策を強化しています。

二つ目は、和平は無理という意識が双方に強まっていることです。去年9月のパレスチナ側の調査によると「二国家共存」に賛成48%、反対51%でした。最近のテロに走る若者には組織的背景がなく、現状に絶望した個々人の活動とみられています。

三つめは、和平を進める指導者がいないことです。ネタニヤフー首相は「私の政権がある限りパレスチナ国はつくらせない」と言って、やっと選挙に勝った人です。右傾化に支えられた政府で、6月には極右政党を閣内に取り込んでタカ派色を強め、占領地を返す意思などありません。一方のアッバス自治政府議長は去年10月の国連演説で「自治合意に縛られることはない」と発言しました。イスラエルの入植活動の進展に反発したもので、悲観的空気の中で強硬派が強まっていることの反映です。また、ガザでは

2014年夏のイスラエルによる破壊からの復興はなく、過激派組織が次々に生まれ、子どもたちに軍事訓練をさせています。

必要なことは、自治合意によるもの以外に交渉の枠組みをつくることです。このまま共存をあきらめたらどうなるでしょう。イスラエルによる占領同然の状態を続けるのでしょうか。パレスチナ自治区を全部ガザのように完全封鎖するのでしょうか。パレスチナ人をすべてイスラエル国民化して、かつての南アのアパルトヘイトのように二級市民扱いにするのでしょうか。

重要なのは両市民間の信頼と相互理解です。その点、双方の若者たちを交流、させ、少しずつでも対話の機会を持たせようとする「聖地の子どもを支える会」の活動は、貴重なものだと思います。

■質疑応答

——国連の安保理議長国として、日本は何ができるでしょうか。

出川 シリア停戦では米ロが主プレイヤーです。特にロシアによるアサド大統領説得がカギで、プーチン・ロシア大統領との良好な関係を利用して日本がロシアを動かせないか、と考えます。イスラエル・パレスチナ和平では、仲介に当たる主要国に一致した動きをとらせねばなりません。日本が主要国のまとめ役になることを期待します。

——パレスチナの若者によるナイフでの攻撃に対し、イスラエルは過剰反応ではないですか。

出川 私も同じ心配をします。最近の個人の自発的行動による殺傷は将来に対する絶望感、和平への無力感の深さからくるもので、希望を復活させねばこの流れは変えられません。ガザのような、暴力に対するイスラエルの過剰な攻撃が、また起きる恐れが強いと懸念しています。

出川展恒 (のぶひさ) 氏：1985年、NHK入局。91～92年テヘラン、94～98年エルサレム、2002～06年カイロの各支局長を経て06年7月から中東・アフリカ・イスラム地域担当の解説委員を務める。

(村上宏一)

イスラエル・パレスチナ・日本 友好のつどい

プロジェクト準備も大詰めを迎えた6月26日、『イスラエル・パレスチナ・日本 友好のつどい』を東京・四谷の幼きイエス会ニコラ・バレ修道院にて開催しました。

第1部では藤原歌劇団所属のソプラノ歌手、家田紀子さんのコンサート、また第2部では、恒例となった東京・神田『アルミーナ』のアラブ料理ビュッフェが供され、楽しいひとときとなりました。

イスラエル大使館から一等書記官ヨナタン・レベル氏が参加され、温かい言葉をいただきました。

会場にはイスラエル・パレスチナグッズのバザールコーナーを設け、アラブ料理と合わせて、エキゾチックな異国の暮らしに思いをはせていただくことができました。

イベントの冒頭でプロジェクト参加者による映像を交えた活動の紹介を行い、いっそうの支援を呼びかけました。
(佐藤 克裕)



家田さんの熱唱。ピアノは瀧田亮子さん。



プロジェクト参加者、斎藤鉄也によるプレゼンテーション

ホロコーストから学ぶべきものは何か

村上 宏一（当法人理事・元朝日新聞中東アフリカ総局長）

少し前のことになりますが、今年5月21日の朝刊に、イスラエルの国防相が「首相と対立し辞意」という記事が載りました。ネタニヤフー首相が、対パレスチナ強硬派でアラブ系イスラエル人の排斥を主張する極右政党「イスラエル我が家」のリーベルマン党首に政権への参加を要請し、国防相への就任を打診したのを受けての辞意表明でした。ヤアロン国防相は2002～05年にイスラエル軍参謀総長を務めた後、08年に右派政党リクードに入党してすぐ国会議員になり13年3月、国防相に就任しました。彼はヨルダン川西岸へのイスラエル人の入植強化に賛成しており、パレスチナ和平に積極的とはいえない人物です。そんな人でさえ反発した極右政党の入閣要請でしたが、結局リーベルマン国防相が実現し、「イスラエル史上最も右寄りの政権」と呼ばれる内閣ができました。中東和平に積極的なわけがなく、

現に6月3日にパリで開かれた和平交渉仲介国など関係諸国による会議にも、フランスによる提案の段階から反対していました。

ヤアロン氏は辞意表明の際、「イスラエルとリクードを過激で危険な要素が支配している」と発言しました。ストレートな言い方で、かなり強烈な警告ですが、それよりもっと驚くべき発言が軍のナンバー2からありました。ヤイル・ゴラン副参謀総長によるものです。

彼は「600万人のユダヤ人が抹殺されたホロコーストを思う時は、その惨禍を繰り返さぬよう教訓とすべきです」と述べたうえで、「ヨーロッパで70～90年前に起きた恐るべきことの名残が今、我々の中にも見出せることに恐れを感じる」と語ったのです。つまり、イスラエル兵が時にパレスチナ人を手荒く扱うことなどを例に、現在のイスラエルに、ホロ

コーストの実行者であるナチス・ドイツを連想させるものがあると言ったに等しいのです。

被差別の歴史をくぐり抜けてきたユダヤ人には、自分たちこそ被害者の中の被害者であり、最大の加害者であるドイツ人と比較されるなどともないと激高する人が多いと思われます。現にネタニヤフ首相は「ナチスとの比較は恥すべきことだ」と強く非難しました。このような傾向に対してはイスラエル人の中にさえ、ユダヤ人が被害者として別格であるかのように考えるのは問題だと、批判的な人たちもいます。

しかし、欧米の人々の間には、ホロコーストを防げなかったという負い目から、「反ユダヤ主義者」と言われることに過敏に反応する空気があります。そのため、イスラエルの政策を批判したのに対して、それがユダヤ人差別とは無縁のものであっても「反ユダヤ主義」と言われると腰が引けてしまう、という傾向があったことは否定できません。そのことが、対パレスチナ政策で行き過ぎと思われることがあっても批判の矛先をにぶらせる面があると、筆者は思います。



ハンナ・アーレントというドイツ出身のユダヤ人哲学者がいました。1961年にエルサレムで開かれた「アイヒマン裁判」についての彼女のレポートが、ユダヤ人社会に大きな反響を呼びました。2012年制作の映画「ハンナ・アーレント」が最近、改めて話題になっているようです。

アイヒマンはナチス親衛隊の将校としてユダヤ人の絶滅計画・強制収容所送りに指導的立場で関与したとして逮捕・訴追された人物です。1961年12月に死刑判決が下された裁判のレポートで彼女は「悪の凡庸さ」という表現を使って、アイヒマンはほかの人の立場に立って考える能力に欠けた単なる官僚だったと書きました。ナチスによる巨悪が、ユダヤ人を憎悪する悪魔のような人物ではなく、凡庸な人間によって担われたという説明。これがユダヤ人の多くから、大量殺戮が凡庸なものでナチスの犯罪を軽

く見るものだとして受け取られ、非難の嵐が巻き起こったのです。さらに、アーレントが「無用の人種」というものが政策として決められ、官僚によって大量殺戮が実行に移されたという悪を、ユダヤ人に対する犯罪というより人類に対する犯罪であるという趣旨のことを書いた点が、ユダヤ人被害者たちにとってはあまりに普遍的すぎる視点だったのです。まさにユダヤ人は「被害者の中の被害者」という意識を逆なでするものだったのではないのでしょうか。



以上のような事情を考えるにつけ、ゴラン氏の発言がいかに勇気あるものだったかと驚くのです。この発言はホロコースト記念日（今年は5月5日）の式典で、政治家たちも列席する中で述べられました。ゴラン氏は「ホロコースト記念日にこそ我々は、指導者の責任について自己省察し、他者に対しどう行動するかを根本から考え直すべきです」と呼びかけました。それだけなら一般的なモラルを強調する演説ですが、ナチスが猛威をふるった時代の空気が現在のイスラエルにも感じられると言ったのですから驚きの目を向けられ、議論を呼んだのです。

発言の背景には、パレスチナ人の若者がイスラエル人を襲う事件が相次ぐ中、テロ容疑者や不審とみられたパレスチナ人が簡単に殺されることから、イスラエル側は過剰反応ではないかという懸念が生じていることがあります。海外からは、人権団体がイスラエルは殺傷力の高い武力の使用を中止すべきだと訴えたり、ある国の閣僚がイスラエルは法定外の処刑をしていると非難したりする動きが出ています。

一方、イスラエル軍では参謀総長が3月末、若い兵士たちに対し、襲撃容疑のパレスチナ人を取り押さえるのに過剰な武力を使わないよう警告する見解を発表しました。ヨルダン川西岸南部のヘブロンで、兵士の一人が負傷して動けずにいたパレスチナ人の襲撃犯を撃ち殺した事件を受けてのものです。その兵士は殺人の罪に問われました。軍事・治安行動に際しての規範を守らない将兵の行為を見逃さ

日本の支援者の 皆さま、ありがとう！

日本の支援者の皆さま、ありがとう！心から感謝します。おかげさまで、この1年間、延べ48名の生徒が学校へ通うことができました。それぞれの学校の校長先生から領収書をいただいています。

所在地・学校名	支援できた 生徒数
●エルサレム	
聖ヨゼフ学院	10
テラ・サンクタ学院	6
聖タルクマンハス学院	4
聖ディミトリオス スクール	4
ラサール学院	3
アル・サナファー幼稚園	2
シュミット学院	2
聖ジョージ学院	2
オリーブ山学院	1
スパニッシュスクール	1
聖チャールズ幼稚園	1
●ラマッラー	
アラブ福音スクール	1
福音ルーテル学校	1
●ベツレヘム	
聴覚障害児のためのパウロ6世エフエタ学院	8
● Beit・ジャラ	
タリタ・クミ スクール	2
合 計	48

**教育資金が不足しています
一層の支援をお願いいたします**

顔の見える支援 里親募集中！

ある特定の子どもの教育を、毎月一定の支援金で継続的にサポートする里親制度。一歩進んだ国際協力のかたちです。里親と里子の間で、写真や手紙の交換をすれば（任意）、個人的なつながりが持て、子どもの成長を身近に見守ることができます。

詳しくは、当法人事務局まで。

ず訴追する点で、イスラエル軍の公正さは世界に誇れるものだといえます。ところが、国会議員の中からは参謀総長への怒りの声があがったそうです。社会全体に、不安の高まりとともに不寛容の空気が強まり、暴力への過剰な対応が受け入れられやすくなっているようです。市民が暴徒となって怪しいとみなした人を襲う事態が懸念されるようになり、それが現実になった例も報じられています。去年10月、イスラエル南部ベエルシェバで兵士などが殺傷される事件が起きた際、居合わせたエリトリア人の若者がパレスチナ人襲撃犯（死亡）の共犯と勘違いされ、警備員に撃たれたほか、イスラエル人の群衆から頭を蹴られるなどの暴行を受けて死亡した、というものです。

ホロコーストを繰り返させないという意味で、ユダヤ人が安住の地を求める権利を否定できず、イスラエルを抹殺せよという主張にくみすることはできません。ただし、ユダヤ人の被害を強調し過ぎて生き残るためには何でも許されるというような論調があれば、それにも同調することはできません。パレスチナ人にも安住の地を求める権利があることを、イスラエル人の側も忘れてはならないはずです。

パレスチナ系米国人の英文学者、故エドワード・サイド氏がイスラエルを評して記した次のような言葉があります。

「自らが犠牲を強いられたからといって、他者に犠牲を強いることを継続できないはずだ」イスラエルの人々が「他者に犠牲を強いている」という意識を持てたら、状況もずいぶん変わるのではないのでしょうか。



2016年度 総会のご報告

当法人の総会が去る6月19日15時～17時に行われ、2015年度の事業報告書及び収支決算書、2016年度の事業計画書と予算書について承認されました。

2015年度 活動計算書

2015年4月1日から2016年3月31日まで

(単位:円)

【経常収益】		
【受取会費】		
正会員受取会費	200,000	
賛助会員受取会費	7,088,709	7,288,709
【受取寄付金】		
受取寄付金		2,226,192
【受取助成金等】		
受取助成金	52,239	
受取補助金	200,000	252,239
【事業収益】		
参加料金収益	2,936,270	
自主事業収益	1,509,956	4,446,226
【その他収益】		
受取 利息		153
経常収益 計		14,213,519
【経常費用】		
【事業費】		
(人件費)		
給料 手当 (事業)	2,453,440	
人件費計	2,453,440	
(その他経費)		
業務委託費	251,200	
国内業務委託費	(251,200)	
諸 謝 金	666,926	
国内諸謝金	(130,000)	
国外諸謝金	(536,926)	
印刷製本費 (事業)	993,457	
会 議 費 (事業)	115,442	
旅費交通費 (事業)	487,173	
交通費	(204,777)	
宿泊費	(282,396)	
旅費海外 (事業)	3,056,057	
海外航空券等	(2,486,185)	
海外交通費	(264,731)	
海外宿泊費	(305,141)	
通信運搬費 (事業)	688,898	
消耗品 費 (事業)	177,525	
賃 借 料 (事業)	101,030	
保 険 料 (事業)	21,300	
租税 公課 (事業)	30,587	
支払手数料 (事業)	159,038	
支払助成金	1,000,000	
支払寄付金	41,211	
為替 差損	12,194	
その他経費計	7,802,038	
事業費 計		10,255,478

【管理費】		
(人件費)		
役員 報酬	900,000	
給料 手当	823,370	
法定福利費	39,072	
人件費計	1,762,442	
(その他経費)		
印刷製本費	8,727	
会 議 費	61,751	
旅費交通費	146,430	
通信運搬費	107,977	
消耗品 費	161,494	
地代 家賃	688,800	
賃 借 料	2,500	
広告宣伝費	19,940	
接待交際費	41,216	
諸 会 費	40,000	
支払手数料	117,427	
雑 費	25,584	
その他経費計	1,421,846	
管理費 計		3,184,288
経常費用 計		13,439,766
当期経常増減額		773,753
【経常外収益】		
過年度損益修正益		1,000
経常外収益 計		1,000
【経常外費用】		
過年度損益修正損		298,206
経常外費用 計		298,206
税引前当期正味財産増減額		476,547
経理区分振替額		0
当期正味財産増減額		476,547
前期繰越正味財産額		790,466
次期繰越正味財産額		1,267,013

【活動計算書の注記】

過年度決算修正益：2015年3月賛助会費未記帳分

過年度決算修正損：2015年3月通信費及び支払手数料未記帳分

支援団体・支援者のお名前

教育にご支援くださった皆さんです。

2015年4月1日～2016年3月31日（敬称略 匿名希望の方のお名前は省かせていただきました。）

支援団体

医療法人 かどもと眼科
栄光学園 愛の運動委員会
NPO国際協力NGOセンター
援助修道会 管区本部
援助修道会六甲修道院
お告げのフランシスコ姉妹会 ナザレ修道院
御聖体の宣教クララ修道会
大阪聖ヨゼフ宣教修道女会
幼き聖マリア修道会
カトリック大宮教会
カトリック片瀬教会
カトリック北浦和教会
カトリック金剛教会
カトリック鷺沼教会内古着プロジェクト
カトリック修道会 カルメル山の聖母修道院
カトリック修道会 聖ヨゼフ修道院
カトリック夙川教会
カトリック高千帆教会
カトリック田園調布教会 日吉家庭集会
カトリック仁川教会
カトリック二宮教会
カトリック碑文谷教会
カトリック古川教会
カトリック松戸教会 コスモスの会
カトリック松原教会
カトリック由比ガ浜教会 福祉委員会
カトリック百合ヶ丘教会コーヒーコーナー
株式会社 C.S.C
吉祥寺教会聖地のこどもを支える会
木村 洋行(株)
ケベック・カリタス修道女会本部修道院
汚れなきマリアのクラレチアン宣教修道女会
厳律シトー会天使の聖母トラピスチヌ修道院
サレジアンシスターズ管区本部
サレジオ修道会
宗教法人 カトリック・カルメル修道会
宗教法人カトリックイエズス会
殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会
聖体奉仕会
聖ドミニコ宣教修道女会坂出聖マルチン修道院
聖フランシスコ病院修道女会姫路修道院
聖ベネディクト女子修道院
聖母奉献修道会
東京カルメル会 女子修道院
十勝カルメル会修道院

ドミニコ会 本部事務所
ドミニコ会聖ヨゼフ修道院
長崎純心聖母会
日本海洋掘削株式会社
日本キリスト教団集鴨ときわ教会
ノートルダム学院小学校 ボランティアサークル
福音史家聖ヨハネ布教修道会
ベルナデッタ第一修道院
本河内カトリック教会 聖母の騎士 江原
マリアの宣教者フランシスコ修道会
マリアの御心会
目黒サレジオ幼稚園
横浜雙葉小学校 母の会
レデンプトリスチン修道院

(59団体 順不同)

支援者

Gonzalez Marquez Jose Alfredo	天田 雄次	伊藤 英樹
Harvey Paul A.S.	天明 恭子	稲垣 佐江子
Lucas.C	有田 美江	稲垣 純
アントニオツゲル神父	家本 敏治	井上 ちひろ
キャロットクラブ代表井上清子	五十嵐 京子	井上 弘子
ヒラリオ・シュミット	五十嵐 洋枝	井上 瑞子
マーフィー ジョン	井口 美紀	井上 静子
テレンス	池永 廣美	井上 千賀子
マイルット・ジエームス神父	池端 千代	今村 信之
ミリアーノ 未峰	池田 康弘	岩永 千代子
ラザフォード 貴美子	石井 英子	岩崎 正幸
相川 栄蔵	石井 直子	岩田 卓三
相葉 敬子	石川 めぐみ	岩本 憲嗣
相良 敦子	石田 知子	宇野 節生 順子
青山 博子	石館 要	梅崎 由紀子
青山 美恵子	石谷 治子	浦田 むつみ
秋田 芳子	石原 淳一	越知 哲夫
麻生 麗子	泉 知子	遠山 満神父
浅沼 誠子	磯部 雅子	遠藤 恵美子
芦川 恵美子	一重 弥生	遠藤 香恵子
東 幸江	市川 浩一	海老名 民喜
阿部 圭子	市川 黎子	江波戸 晴夫
阿部 初音	伊東 止女子	大岡 よし江
安藤 眞樹	伊藤 勝子	大澤 由紀子
荒川 淑	伊藤 多恵子	大田 孝
新 圭子	伊藤 都留子	太田 晴子
新居 孝彦	伊藤 裕幸	大谷 恵美子

大友 幸子	川村 直道	先田 直子	高野 千草	中山 宏
大西 美恵	川島 瑞枝	佐々木 郁子	高柳 美恵子	中山 恭子
大西 茂雄	川平 俊子	佐々木 俊之	鷹觜 達衛 神父	中山 夕里亜
大野 直美	川本 和子	佐々木 ふみ子	田川 照子	中村 シノ
大森 アヤ子	菅野 滋子	佐々木 百合子	田口 幾子	中村 季子
大部 優	喜山 聖子	佐多 保彦	武井 博	中村 寿美
大屋 和江	菊池 鈴子	佐藤 光子	武井 範子	中島 英一
大八木 汜子	京極 由理子	佐藤 克裕	竹谷 純子	中島 紀史子
大和田 義郎	北 達夫	佐藤 俊彦	竹脇 美帆子	中島 敏夫
大和田 晶子	北岡 奈里子	佐藤 美津子	丹呉 喜美子	中本 由希子
奥西 美保子	北垣 陽子	郷家 かな江	田島 久仁子	中野 剛
奥村 聡	北原 豊子	佐野 澄子	田制 則子	中野 幸子
岡 捷子	北楯 暢子	薩田 寿隆	田制 忍	中里 光代
岡 晶子	北田 契子	塩原 いね子	城 トミ子	中澤 リナ
岡島 順子	木村 護朗	篠原 誠吾	立林 久美	長井 外美子
岡部 浩典	木村 浩之	清水 泰二	建部 正秋	長倉 禮子
小川 千枝子	木村 靖子	島田 ミサオ	立脇 和夫	長坪 光
小川 泰弘	清藤 富世	島田 みち子	田中 伸枝	長野 きみ彖
桶屋 理恵子	久保 千鶴子	忍見 春枝	田中 翠	長野 凜
尾島 純子	栗栖 徹	白水 明代	田中 節子	奈切秀明
小谷野 泰	工藤 昭子	白柳 隆明	田中 千晴	内藤 和子
小田 淳	国峰 恵子	神野 裕美	田中 博	難波 希和子
小野 修	黒滝 津哉子	鈴木 サワ工	田中 禮子	蕪木 直江
小野 譲治	黒田 道子	鈴木 絢子	谷口 裕貴	西 勝
柿崎 ゆか子	後藤 秀次	鈴木 志帆子	谷山 正恵	西園 正恵
笠松 仁美	後藤 礼子	鈴木 典子	谷澤 まり	西出 祥子
笠島 澄子	興石 修古	鈴木 登喜子	田畑 孝子	西田 仁枝
片岡 康則	胡 美喜子	鈴木 敏博	田村 奈巳	西田 百合子
加地 貴美子	古和田 喜昭	鈴木 國弘	玉置 幾久榮	乗倉 寿明
勝原 孝子	近藤 節子	角 加代子	角田 和子	野口 裕之
加藤 喜代子	小塩 隆二	関 安幸	塚田 道子	野坂 静子
加藤 恵子	小坂田 さち子	関口 素子	辻 美佳子	野村 智美
加藤 健三	小山内 州一	高岡 節子	土屋 道子	野田 寛
加藤 千恵子	小出 宏子	高橋 泉	寺田 京子	野田 征子
加藤 由実子	小池 久子	高橋 佳代子	手嶋 直美	英 隆一朗 神父
加藤 和子	小島 京子	高橋 久子	出川 恒展	橋本 和子
金井 智子	小嶋 光恵	高橋 和子	戸澤 華江	原 桂子
金子 由佳	小西 一枝	高橋 望	得田 照	早川 昌江
金澤 良子	小西 羊一	高山 早代	徳能 恵子	半田 和巳
釜谷 公子	小林 久美子	高塚 富士子	富田 道代	浜岡 江子
鎌田 まさ子	小林 光子	高田 世津	戸井 利子	服部 英子
鎌田 英明	小林 千枝子	高田 留奈子	永吉 恵子	葉山 文子
河田裕子	小林 美紗子	高島 文枝	永富 久雄 神父	林 敏恵
瓦 妙子	小藤 道子	高島 友子	永廣 ひろみ	馬場 共栄
川口 節子	五味 美香子	高馬 和子	中井 さつき	伊達 由美子
川西 通子	斉藤 直子	高平 たつみ	中原 由美子	日紫喜 満章



- | | | | | |
|----------|---------|--------|---------|--------|
| 平賀 徹夫 司教 | 古屋 恵子 | 水野 宏之 | 矢田部 公仁子 | 吉川 英子 |
| 平田 和美 | 古田 瑩子 | 水野 眞由美 | 宿澤 恵子 | 吉川 八重子 |
| 深田 久子 | 堀口 明美 | 溝井 光子 | 矢野 廣美 | 吉川 陽子 |
| 深堀 柱 | 本間 早苗 | 道の会 | 柳田 和佐 | 吉田 とし子 |
| 深澤 恵子 | 前島 郁子 | 光藤 操 | 矢部 円 | 吉田 恵子 |
| 深澤 美知子 | 馬越 由美 | 簗島 すみれ | 山内 亨子 | 吉田 三代江 |
| 藤井 啓子 | 牧瀬 翠 | 宮下 幸恵 | 山内 春治 | 吉田 純子 |
| 藤岡 素子 | 間嶋 春美 | 宮川 園絵 | 山川 玲子 | 吉田 友一 |
| 藤原 伸子 | 榎居 文子 | 宮倉 満子 | 山田 康子 | 吉田 有子 |
| 藤原 真理子 | 榎谷 紀子 | 三宅 英美子 | 山田 剛 | 吉村 糸子 |
| 藤村 栄三郎 | 眞下 まゆみ | 三宅 哲子 | 山田 真理子 | 米嶋 洋子 |
| 藤田 春美 | 松井 瞭博 | 宮田 靖子 | 山田 千秋 | 李 アンナ |
| 藤田 能孝 | 松岡 啓貴 | 宮野 美智子 | 山田 路子 | 和田 美寿子 |
| 藤本 厚 | 松原 グレイジ | 三好 和枝 | 山本 恵美子 | 渡辺 千津子 |
| 藤本 保子 | 松原 勉 | 向井 喜代美 | 山本 幸子 | 渡部 朋子 |
| 藤本 千代子 | 松山 律子 | 村岡 秀子 | 山本 純人 | 渡辺 延子 |
| 福井 潔 | 松田 喜代子 | 村上 和 | 山本 勝也 | 渡部 美佐子 |
| 福崎 康代 | 丸山 陽子 | 村上 宏一 | 山脇 由美 | 渡辺 禮子 |
| 福瀬 くに子 | 丸山 ヒデ子 | 守口 毅 | 雪野 秀子 | |
| 福田 幸子 | 眞山 かほる | 森本 明子 | 杠 愛子 | 匿名 17名 |
| 福田 青柳 | 三上 成子 | 安川 三保子 | 杠 隆志 | |
| 福島 貴和 | 三島 八重子 | 安田 美知子 | 横沢 文子 | |

2017「平和を願う対話の旅」 スタディー・ツアーのお知らせ

イスラエル、パレスチナを訪ねて、聖地と世界の平和を考えるツアー「平和を願う対話の旅」、2017年も実施します！日本の若者とともに、皆さんがいつも支援して下さいいる子どもたちに会いにいらっしやいませんか？
支援者・里親の皆さまのご参加をとくに歓迎いたします。「聖地の子どもたちの今」を見てやって下さい。

【プログラム】

エルサレム、ベツレヘム、テルアビブで、現地の子どもたち、青年たちと交流します。学校や各種施設を訪問、難民キャンプ、分離の壁や検問所の見学、死海観光など盛りだくさん、学生は各地でホームステイも体験します。

日 時：2017年3月2日(木)～13日(月)【12日間】(予定)
参加費：約350,000円(おとな) 約290,000円(学生)
お申込み期限：2017年1月15日



ご希望の方はなるべく早くご連絡ください。
お問合せは当法人事務局へ

TEL 03-6908-6571
090-6538-3255
E-mail ispalejpn@google.com

チャリティーイベントから



▲イスラエル大使館一等書記官ヨナタン・レベル氏。



▲アラブ料理ビュッフェに行列。異国情緒を満喫していただきました。

「平和の架け橋」プロジェクトから



▲浴衣でお祭りに参加。善光寺の門前にて。



▲座禅を体験。



▲子どもたちとバーベキュー。飯綱高原にて。



▲デイサービスの老人ホームでコーラスを披露。長野市内。



▲デイサービスの老人ホームでふれあい。



▲言葉はわからなくても気持ちは通じます。